



こんにちは！1月の巡回では子ども達から楽しかったお正月の話聞くことができました。

凧あげやお年玉、お餅を食べたことや初詣でおみくじを引いたこと、屋台で綿菓子を買ってもらったことなど、たくさんお話をしてくれました。さて、今回は子どもの言葉の獲得について記事を作成しました。



《子どもとの雑談の大切さ》

家庭での子どもとの会話はどんなことがあるでしょう？例えば「保育園で〇〇して遊んだ」「赤い車が早いスピードで走っていて危なかった」「今日の晩御飯は〇〇が食べたい」など、子どもとの雑談には様々な言葉や意味合いが含まれています。そして、その会話に合わせて話を掘り下げること、イメージの共有や必要性、計画性、その際に必要な事柄をつなぎ合わせて自分のものとしていきます。

《雑談とビジネストークは全く違う》

家庭でお話をたくさんしていると言っていた保護者の方にどんな内容かを伺うと、多くの言葉がビジネストークになっている場合があります。

例「靴を履きなさい」「歯を磨いたの？」「ご飯を食べなさい」など、雑談ではなく指示になっている場合が多くありました。是非、日常やこれからの期待（楽しいこと）などをたくさんお話できるようになると良いですね！



《テレビ・メディアと言葉（学び）の関係性》

テレビやメディアは実に多くの言葉を子どもたちは受けます。大人は一見、テレビやメディアなどを通じて、言葉を学んでいると錯覚してしまいます。子どもの脳は応対的な対応をすることで、必要な言葉を現場で起こっている環境と共に結び付けて蓄積していく特性があります。要するに関わりの中で、必要なことだと気づき自分の経験として蓄積をしていきますが、テレビやメディアなどの一方的な言葉のシャワーは、子どもにとっての必要性（繋げる）を感じるのが難しく、蓄積できない状態であると言われています。



是非、子どもと雑談をたくさんしてみましょ。それは教材や学習塾では得ることができない、大切な子どもの基礎力を育てることにつながります。



QRコードからLine@にお友達登録をいただくと、

毎週、子育て情報をお届けします！